

応援します！ #パートナーシップ構築宣言

海の技術を陸へ、発泡スチロール樹脂のマリンフロート

海で培った確かな技術を陸へ



岡山県にあるマリンフロートは、養殖イカダ用の発泡スチロール製造で創業。発泡スチロールへの樹脂塗装技術を確立し取り扱いを始めた「浮棧橋用フロート」は、同社の主力製品であり、約40年の実績を積み上げてきた。

現在では、「海で活かしてきた技術」を陸上に転用。過酷な海上の環境で何十年も耐える海洋製品の技術を建築装飾に受け継ぎ、軽さ・弾力性といった発泡スチロールの特性を最大限に活かした自由で柔軟なデザイン製品を手掛ける。同社の手がける製品は特注の1点ものも多く、飲食店の看板やショッピングモールの装飾などの実績がある。

同社はこれまで、新しい技術を取り入れながら事業領域を拡大してきたが、事業展開や製品製造にあたっては、アイデアや課題解決力が強く求められる。社員全員で「ものづくりは物語」という価値観を共有し、社員同士が認め合い、そして成長していくことで、今後も事業を持続・発展させていく企業を目指している。

組合の先導によるパートナーシップ構築宣言

同社は2022年7月にパートナーシップ構築宣言を公表した。

パートナーシップ構築宣言の制度を知ったのは、所属する日本フォームスチレン工業組合の総会。組合の理事長（大西コルク工業：兵庫県）が、パートナーシップ構築宣言の理念に共感し、組合全体で取り組もうと総会で声を上げたことをきっかけに、現在までに8割以上の企業が宣言し取り組んでいる。

同組合には8つの地域ブロック支部があるが、同社は中国・四国ブロックの支部長を務めていることから、率先して宣言するだけでなくブロックに所属する10社にも声かけし、全社がパートナーシップ構築宣言の公表に至っている。まさに業界をあげた取組に発展させている好事例である。



「クラフトマンシップ」の精神



「プラスチックは環境に良くない。」、そういったイメージを払拭すべく、同社は使用量の多い養殖フロートの水平リサイクルに取り組んでいる。

経産省の「令和3年度補正 廃プラスチックの資源循環高度化事業費補助金」に採択され、マテリアルリサイクル設備を導入した。廃フロートを自主回収して、表面の古くなった部分を削り、まだ使用できる部分は粉碎・インゴット化。バージン材と合わせて混合成形を行い、新しいフロートとして生き返らせている。削った部分はRPF（固形燃料）化し、サーマルリサイクルすることで、廃フロートを99%以上リサイクルしている。

水質汚濁抑制システムや水中ドローンを活用した水環境の保全・点検・調査を高専・大学と共同で研究するなど、環境保全にも取り組みを拡大している。

仕事においては「出来ませんを禁句」としている。お客様の想いを社員一丸となってカタチにしていく「クラフトマンシップ」で、これからも発泡スチロールで唯一無二の「ものづくり」を行っていく。

【会社概要】

会社名：株式会社マリンフロート

所在地：岡山県岡山市南区箕島271

パートナーシップ構築宣言日：2022年7月6日

<https://www.biz-partnership.jp/declaration/57936-05-24-okayama.pdf>

■担当者の一押しポイント

社長さんのお話はアイデアが溢れ出るものだったが、建築装飾3D技術を使い、「えっ、こんなところにも？」といった製品がよく知った場所に使われており、驚きの発見だった。

職人さんが細部まで丁寧に製造される姿は、まさにクラフトマンシップといった感じだったが、パートナーシップ構築宣言もそういった気概で組合支部全社を取りまとめられており、とても印象深いものでした。

